TSURUGAKUEN HIROSHIMA SENIOR HIGH SCHOOL JUNIOR HIGH SCHOOL
ATTACHED TO HIROSHIMA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

HIROSHIMA SENIOR HIGH SCHOOL JUNIOR HIGH SCHOOL ATTACHED TO H.I.T

NEWS

鶴学園広島工業大学・附属中学校
広島高等学校通信
VOL. 140
2007・10月発行

自然と人との共生に“生き方”を学ぶ

夏の日差しを浴びて、すくすくと育つ森の木々、そして雄大な自然。そんな緑豊かな自然を「高Ⅱ研修旅行（北海道自然体験コース、北海道カヌー体験コース、屋久島・もののけ姫の森体験コース）」「中1校外学習」では体験することができました。普段の生活のなかでは決して体験することのできない自然のなかでの生活や農作業。生徒たちは、様々なアクティビティーを通して、自然を自分たちの五感をフルに使って感じることができました。そして、そこから自然について考え、自然と人間とはどのようにあるべきなのかをも学ぶことができました。

高Ⅱ　北海道・カヌー体験コース

広島→北海道
●阿寒湖●釧路川
平成19年7月22日（日）～7月27日（金）
SENIOR HIGH SCHOOL

北海道カヌー体験コースは阿寒湖・釧路川でのカヌー体験を中心にさまざまな体験をすることができました。釧路湿原に囲まれた釧路川を下りながら雄大な自然をのんびりと感じつつ、雲ひとつない晴天のなか汗をかきながら目的地まで下りきる達成感を味わいました。今回の研修旅行を通じて、生徒たちはカヌーそのものを楽しむなかで、ペアの人と互いに協力してカヌーを操縦する楽しさも感じることができたのではないでしょうか。そして、なによりも普段の生活では感じることのできない自然を肌で感じることができました。

「百聞は一見に如かず。」まさにその通りだった。北海道の自然の雄大さ・すばらしさを、インストラクターの方の説明だけでなく、自分の五感で感じることができ、とても貴重な体験をすることができたと思いました。　Ⅱ年5組　笹木 恭兵

高Ⅱ　北海道・自然と生きる暮らし体験コース

北海道自然体験コースは、然別湖で北海道の自然を直接身体で体験し、また二風谷村ではアイヌの人たちと、長沼町では農家の方々と出会う機会を持つことができました。3日間を過ごした然別湖では早朝カヌーやラフティング、渓流釣りなどを楽しみました。最後に訪れた長沼町では生徒たちはそれぞれ農家で一晩を過ごし、農作業の手伝いを通じて地元の人たちの暖かさに触れることができました。今回の研修旅行を通じて、スポーツなどを実際に体験することの楽しさと、地元の人たちと語り触れ合う機会を持つことができた充実した研修旅行でした。

広島→北海道
●日高ケンタッキーファーム●然別湖
●二風谷アイヌ村●長沼町
平成19年7月22日（日）～7月27日（金）
SENIOR HIGH SCHOOL

とにかく北海道の雄大な自然を満喫できました。それと同時に、この自然を残していかなければならないという使命感をもちました。自然のありがたみが心も体も全てを通じてわかりました。そして、自然に囲まれると、自然と肩の力が抜け自然体でいることもできると感じました。広島ではなかなか体験することのできない貴重な体験をすることができました。
Ⅱ年3組　田丸 実里

CONTENTS

● 高Ⅱ研修旅行 ―― 1・2・3
● 中1校外学習 ―― 2
● 高Ⅰニュージーランド語学研修 ―― 4
● 中2ニュージーランド交換留学 ―― 4
● キャリアレポート ―― 5
● 卒業生による進路講話 ―― 5
● 第43回文化祭インフォメーション ―― 6
● 秋読書のすすめ ―― 6
● CLUB NEWS ―― 6

高Ⅱ　屋久島・もののけ姫の森体験コース

広島→屋久島
平成19年7月22日（日）～7月27日（金）
SENIOR HIGH SCHOOL

初日に、屋久杉記念館や紀元杉を見て回り、2日目以降は3つのグループに分かれて、フォレストウォーキング、スノーケリング、カヤックによる安房川自然ウォッチングを、日替わりで行いました。5日目は、今年より新たに始まった「地元の文化に触れる体験プログラム」でした。稲刈り体験などで汗を流した後、流しソーメンや地元名産のトビウオ、手作りの煮染めに舌鼓を打ちました。地元の方々の温かいもてなしに、生徒たちは「田舎に帰ったようだ」と大喜びでした。夜には、民宿のオーナーであり、屋久島の自然保護運動の旗手と呼ばれた柴さんのお話を伺う機会に恵まれました。生徒たちは真剣に耳を傾けながら、自然遺産としての屋久島とその土地に住まう人との関係について考えさせられたようです。

今回の研修旅行を通じて、五感をフルに使って大自然を満喫することができ、その自然を保護し、維持し続けるために地元の方々やエコガイドの方々が様々な苦労を重ねていることも併せて実感できた、大変充実した研修旅行でした。

屋久島は、自然を中心として人間が生活している島だということが一番よく伝わってきました。まず、自然があって、次に人間が自然の恵みを受けて生活させてもらっているという考えのもとで、屋久島は成り立っていると思いました。それが本来の自然と人間との関係だと思いました。　Ⅱ年5組　大浜 諒子

切られた竹の食器で食べる、貝の入ったお味噌汁、薩摩揚げ、魚の塩焼き…。夏の日差しの中、石に腰掛けて食べる手作りの料理。これが美味しくないわけがありません。たくさんの昼食を作ってくださったり、親切に話しかけてくださったり、様々なことを教えてくださったり…。屋久島の方々には本当にお世話になりました。どれだけ感謝してもしきれません。屋久島の人々との交流を通して、私もいつも親切で温かい心を持った人間でありたいと改めて思いました。

Ⅱ年2組　谷口 詩織

中1　校外学習

八千代校舎
平成19年7月24日（火）～26日（木）／前半グループ
平成19年7月28日（土）～30日（月）／後半グループ
JUNIOR HIGH SCHOOL

中学1年生が宿泊を伴う学校行事としては2回目となる校外学習を行いました。今年度は「感じる」というテーマを設定し、普段とは異なる環境で、3日間仲間と協力して様々な体験をしました。

「森の物語」では班ごとに八千代キャンパスの地図を、五感を頼りに作成し、発表しました。「森の晩餐会」や「森の朝食会」ではかまどの火起こしに苦労しながらも、野外での食事を楽しみました。「森の村づくり」では初めて使用する道具に戸惑いながらも、どのグループも精一杯取り組みました。また、「森の展覧会」では、個々の創造性を思う存分発揮しながら世界に一つだけの作品を作りました。唯一の夜のプログラムである「銀河鉄道の夜」では、昼間の暑さや慌しさを忘れるぐらいの美しい夜空と朗読、音楽によって夢のような一時を味わいました。そして最終日には、毎年恒例となった90mのそうめん流しを経験しました。

八千代キャンパスのスタッフの方と多くの保護者ボランティアの方に協力して頂きながら、発見と学びの多い3日間を過ごすことができました。

〈森の展覧会〉自然を自分なりに自由に表現

この3日間で感じたことは、緑の葉は美しいということです。普段は、あまり見ないし、見てもあんなにたくさんの緑を見られる機会はあまりないので、とてもいいことだと思いました。僕が3日間を通して新しく発見したことは、「緑の力はすごい」ということです。疲れているときも遠くの森を見ると、フッと疲れが抜けていくようで、緑の力はすごいなと思いました。友達ともたくさんの時間を過ごせて、とてもいい3日間となりました。　1年1組　小田 紘生

この3日間、普段の生活ではありえないぐらいの不便さを感じました。ずっと外にいてとても暑かったし大変でした。もちろんテレビも見られないし、火をおこすことにもとても苦労しました。お茶もとても冷えているわけではないので、のどがよく渇きました。けれど、この不便だなと思う場所にもとてもいい事がありました。「銀河鉄道の夜」などは、私の家からは見られないような星も見えたりして、綺麗でした。あと、ここでしか見られない木、植物、虫などを見たり、そこから何かを感じたりできたことはとても良かったです。この校外学習は、普段学校に来て学ぶことよりも、もっと大切なものを学べたと思います。　1年3組　迫 澪奈

恒例の90mのそうめん流し

多彩な文化と心の交流が成長の糧に

本校は毎年、様々な海外研修プログラムを実施しています。この夏休みも「高Ⅱ研修旅行（イギリス語学研修コース、マレーシア サラワクスタディツアー）」「高Ⅰニュージーランド語学研修」「中2ニュージーランド交換留学」が実施されました。

とまどいながらもたくさんの人々と接するなかで、生徒たちは自分たちの英語に自信をもち、また様々な人とコミュニケーションをとっていくことに楽しさや喜びを感じることができるようになりました。異文化との交流のなかで生徒たちは自分たちの知らない様々なものを知ることができました。そして、同時に普段何気なく思っていた日本のこと、自分のことをも知ることができました。異文化との交流を通して生徒たちは日本を出る前よりも一回りも二回りも成長しました。

高Ⅱ　イギリス・語学研修と世界の友人に出会う旅

広島→イギリス
イギリス サセックス州
平成19年7月24日（火）～8月10日（金）
SENIOR HIGH SCHOOL

何とか伝えたい！

- とにかく自分からコミュニケーションを取ろうとしないと何も始まらない。様々な形でそれを繰り返すことで親密な人間関係が形成されていく。
- コミュニケーションは自分達の生きる世界で一番といっていいほど大切なものだと思った。
- 出来るだけたくさん授業で発言できるよう必死だった。この17年間と同じくらい濃くて楽しい2週間だった。
- 自分が主張したいことを伝わるまで何度も説明した。
- 文化が違うということは面白い経験で腹が立つこともいっぱいあったけど、その文化を認めていくことが大切だと思った。
- 日本人である私は西洋人とは何もかも違うからこそ感じることができた事がたくさんあった。日本人らしさを忘れないことが大切だと思った。

修了証書授与式

ヒースロー空港から南にバスで1時間、イギリス南西部の自然に囲まれた小さな田舎町ハーストピアポイントで実施された語学研修に高校Ⅱ年生35名が参加しました。総計34カ国、1,200人以上の生徒が学ぶ語学学校（名称：マナーコース）での2週間、寮生活をしながら午前は英語授業、午後はスポーツやアート、ダンス、ドラマ、映画鑑賞などのアクティビティから好きなものを選んで参加しました。

タレントショーは夜のメインイベント。プログラムのオープニングを飾るバトンの3名、そして最後はソーラン節を披露しました。辛い放課後練習の甲斐あって2回のリクエスト公演となるほどの大盛況でした。

レベル別20数クラスに分けられた英語の授業では、どんどん発言する他国の生徒に圧倒されながら、生徒たちは必死に食らいついていきました。自分から意思表示しない限りは伝わらないチャレンジの毎日、しかし伝わった時の喜びもまた大きかったようです。そしてこのチャレンジは寝るまで続きました。

ただ英語を学ぶのではなく、毎日の生活から様々なことを学びました。時には言葉なしでも伝わる気持ち。英語をコミュニケーション手段とした多文化の生活で、自己表現や異文化を受容する大切さ、そして世界の大きさを学んだ忘れられない夏となったようです。

高Ⅱ　マレーシア・サラワクスタディツアー

広島→マレーシア
マレーシア サラワク州
平成19年7月21日（土）～31日（火）
SENIOR HIGH SCHOOL

約半年前から約20回の事前学習を行いました。何が本当の幸せか、今の日本は豊かなのかなど率直に意見を交換することで、日本の問題や優れた点を浮き彫りにしました。そうしてサラワク研修に問題意識を持って望む準備をしました。

マレーシアに行ってからは、油ヤシプランテーションの見学、合板工場の見学を通して日本とマレーシアのつながりと日本の繁栄の裏にある多くの人の働きに気づきました。ロングハウスでの生活ではイバンの人々と交流をはかりました。最初は緊張した面持ちであった生徒もイバンの人たちの笑顔や温かい心遣いにすぐにうち解け、あっという間に各家族の一員となっていました。

旅行前は体力が心配されたメンバーでありましたが、そうは思えないぐらい果敢に積極的にジャングルウォーキングや農作業体験などにも参加していました。その後の振り返りミーティングでは、マレーシアに対する偏見を持っていたことが全然正しくなかったこと、人と人とのつながりを大切にしたいことなどの発表を通して、それぞれの生徒が一皮むけて大きくなった様子を感じることができました。

今後はさらに理解を深める事後学習を経て、今回の研修旅行で学んだことを多くの人々に伝えていきたいと考えています。

イバンの民俗衣装を着る生徒

初めて日本と全く環境も文化もちがう国、マレーシアに行って、まず自分の日本の生活は何てぜいたくなんだと思った。私たちがあたりまえのように生きている生活は、ロングハウスでは考えられないし、なにか進んだ生活なのにかっこ悪く感じた。ロングハウスでは家族とか他人などの区別なく、みんなが1つのロングハウスでくらしていて、すごくうらやましかった。日本が失っているものや日本というせまい社会で生活していたら見えないものが、このロングハウスにきて、イバンの人と交流することで見えてきた。物の見方や考え方のちがいを知ることがこのツアーでできた。もっとたくさんの世界のたくさんの人のことや考え方を知りたいと思った。

Ⅱ年1組　竹下 恵美

高Ⅰ　ニュージーランド語学研修

広島→ニュージーランド
ニュージーランド国立ワイカト大学ランゲージインスティテュート（ニュージーランド、ハミルトン市）
平成19年7月21日（土）～8月13日（月）
SENIOR HIGH SCHOOL

ドラマ（英語劇）の発表

暑い日本を離れ、高校Ⅰ年生28名がニュージーランド語学研修に行きました。約3週間ホームステイを体験し、ワイカト大学のランゲージインスティテュートで語学研修を受けました。当初はホストファミリーとのコミュニケーションに戸惑っていた生徒も見られましたが、勇気を出して英語を使うことで次第に自信が生まれ、多くの生徒に笑顔が見られるようになりました。ホストファミリーに“家族”として受け入れてもらい、その愛情を実感した生徒の多くは、「英語は、人と人が“相手への思い”を伝えるための“道具”である」ということに気が付いたようでした。ニュージーランドという異国の地で8月6日を迎え、例年とは違った視点で戦争について考えることもできました。英語を通して、人々の優しさと平和の大切さを学んだ3週間でした。

私がニュージーランドに行く事を決めた理由は、今の自分の英語力で現地の人とのコミュニケーションがどのくらい出来るのかを確かめたかったからです。実際に現地に行ってみると、今の自分の英語力では相手に伝えたいことをすべて伝えられませんでした。そのため身振り手振りや、絵を描いての手段を取る必要がありました。私は今回の語学研修を通して、自分の英語力の低さを身にしみて感じると共に悔しい思いを持ちました。この悔しさをバネに今後、英語を今まで以上に頑張って勉強しようと思います。　Ⅰ年5組　三村 佳奈

中2　ニュージーランド交換留学

広島→ニュージーランド
オークランド
平成19年7月24日（火）～8月10日（金）
JUNIOR HIGH SCHOOL

本校とパサデナ中学校との交換留学も今年で12回目を迎えました。日本で一度ホストをした後でのニュージーランド訪問ということで、パサデナの友達との再会やニュージーランドでの生活への期待に胸を膨らませながら、事前学習を行いました。

ニュージーランドでは、ホストファミリーとの会話や友達との接し方、異国の文化など様々な違いを目の当たりにしながら、壁にぶつかり、悩み、考え、そして助け合うことで、一人ひとりが多くの体験をすることができました。特に日本文化を披露する「Japanese Festival」では、つたない英語ながらも一生懸命説明をし、それでも伝わらない場合にはジェスチャーを交えたり、紙に絵を描いたりと、あの手この手でコミュニケーションをとろうとしていました。また、ホームステイ先においても、初めは挨拶すらままならなかったのが、マオリやニュージーランドの文化についても積極的に会話を交わそうと努力する姿に変わり、生徒達の成長は目を見張るものでした。

2週間という短い期間ではありましたが、その間に経験した多くの出会いや別れ、感動、学び、そして感謝の気持ちを大切に今後の生活に生かしてほしいと願っています。

パサデナ中学校での感動の再会

「Japanese Festival」で折り紙を教える留学生

私が交換留学の中で一番大切にしたことは「会話」です。「会話」は相手と向かい合ってしないと成り立ちません。それを英語で、異国人同士でするのはとても難しいものでした。私ははじめは相手に合わせて話をしていました。しかし、「会話」は自然体でするものだと考え、無理はしないで話すようにしました。すると、あいさつも笑顔でできるようになりました。最後には自分の気持ちを言えるようになりました。「会話」は楽しいな、英語が伝わることは楽しいな、と思いました。今後は今回の経験をいかして、自分の意見をはっきりと相手に伝えるようになりたいと思いました。　2年3組　向井 望

夏休みの研修旅行への想い　白岩 博明 校長

8月初旬、私はニュージーランドへ行き、中学校2年生の交換留学と高校Ⅰ年生の語学研修の様子を見てきました。交換留学や語学研修に加え、ホームステイなどを通じて異文化を体験するというプログラムですが、一人ひとりの生徒が生き生きと目を輝かせながら過ごしていたことに安心をしました。そして、間違いなく「自分を育む」ことのできる貴重な経験であると確信しました。

同月下旬、来校した卒業生に「本校はどんな学校ですか？」と問いかけると、「“きっかけ”を作ってくれる学校だと思います！」と答えが返ってきました。研修旅行や様々な行事を思い出しながら、意欲的に参加することで見えなかった自分を発見できた喜びがあったこと、いろいろな体験が自分の“幅”を大きくしてくれたことなどが今の自分（充実した大学生活）につながっている、と語ってくれました。「なるほどなあ。」とうなずくばかりでした。

本校職員がお世話になっているホストファミリーと共に

キャリアレポート ―― 夢にむかって ――

山田 祥子

1999年4月　東京外国語大学外国語学部
　　スペイン語学科入学
2003年3月　同大学卒業
2003年4月　広島大学職員就職

ソウルにて開催された留学フェアの仕事をしている
山田祥子さん（2006年9月）

仕事について

私は広島大学の事務職員として働いています。今年の3月まで国際部留学交流グループという部署で、留学生や日本語教育等を行う留学生センターの支援を担当していました。4月からは、国際業務研修に参加するため広島大学を一時離れ、文部科学省の大臣官房国際課という部署で働いています。ここでは経済協力開発機構（OECD）、アジア太平洋経済協力機構（APEC）等、国際機関に関することに携わっています。そして、来年4月からの1年間は研修の一環としてアメリカに滞在し、英語の勉強のほかアメリカの大学でインターンシップを経験し、その後広島大学に戻る予定です。

これからの目標

大学というのは、日本人学生の教育以外にも様々な役割を担っています。世界各国からの留学生受け入れ、海外の大学との教育研究協力や、様々な分野での発展途上国支援もその一部です。そういった海外との関わりが深い分野に携わり、国際関連業務の専門性を高めていき、将来は大学職員の立場から国際貢献に携わっていきたいと考えています。

高校生活と大学受験

以前からアメリカという国に興味があり、また学校の先生方の後押しもあって2年生の夏から約1年間アメリカへ交換留学をしました。このときの日本と異なる場所での生活、他国の人々との交流がきっかけで世界の他の国々に関心を持つようになりました。帰国後復学してからは、担任の先生からいただいたアドバイスがきっかけで、大学では英語に加え別の言語を学びたいと考えるようになり、スペイン・中南米で使われるスペイン語を学ぼうと決め、受験に取り組みました。

大学での勉強

大学は外国語学部スペイン語学科へ進学し、1、2年生の間は主にスペイン語を学び、続く3、4年生ではスペイン語圏の社会を研究するゼミに所属し、中南米貧困層の子どもをテーマに学びました。また、大学の授業以外では会話学校や通訳ボランティアに取り組むなど、スペイン語を話す機会を作るように心がけていました。

現在、仕事でスペイン語を使う機会はほとんどありませんが、大学で学び感じ取ったことが、私の今日の考え方、仕事への姿勢につながっているように思います。

これを読んでくださった皆さんの多くは、これから大学受験を経験されることと思います。長い受験生活が辛く感じられることもあるかもしれませんが、このときの努力は将来いろんな形で皆さんに返ってくると思います。楽しみながら頑張ってください！

卒業生による進路講話

9月7日、「卒業生による進路講話」が開催されました。高校時代の学習法から、推薦合格の秘訣や後期試験まで頑張り抜いたこと、現役時代の失敗談や浪人中の時間の使い方まで、様々な自らの経験に基づいた話をしてもらいました。中学3年生から高校Ⅲ年生まで約50人が、先輩たちの話を熱心に聞き、積極的に質問をしていました。

柿木 基志　九州大学 機械航空工学科　機械工学専攻2年

国公立大学を狙うならば、なにがなんでもセンター試験をしっかり取ること。センター次第で情勢は、良くも悪くも大きく変わってきます。また受験には、奇跡も起こり得ます。しかし、その奇跡を引き寄せるにも、それだけの勉強をしていなければいけません。

受験勉強は大学に合格するだけの意味しか持たないのではなく、それを通して、夢について深く考えて自分をより知る機会にもなり、勉強面でも『自分流』を確立できると思います。友人関係も深く広くなり、親に対する感謝の気持ちも大きくなりました。全部ひっくるめて、自分を大きく成長させる大きな機会だと自分は感じています。

勉強も大切ですが、高校生活という短い期間をいかに楽しく爽快に過ごすかということを一番に考えてください。そして、友達は大切に。ここで得た友達や思い出が、人生の財産になると思います。

推薦やAO入試を受ける人は学習時間を確実に確保することに注意してください。浪人中は自分がなぜその進路を選んだのかを再確認することで学習へのモチベーションが維持できました。今心に抱いている志を忘れることなく自分の夢を掴む努力を続けることが大切です。

広島大学の医療系の学部では、他学部の人と班を作り、学習や実習を行う機会があります。将来チーム医療を行うために学生時代からコメディカルの人の働きを知ることは大切だと思います。1年のうちに早期体験実習で現場の様子を見ることができることも広島大学の特徴だと思います。

鮫島 克佳　広島大学 医学部医学科1年

森谷 真紀　筑波大学　人文・文化学群 日本語・日本文化学類1年

学校が用意してくれている機会を積極的に利用すれば、そこから希望の進路やその進路に進む際のヒントが見えてくるかもしれません。私の場合は、中学2年のときのニュージーランド交換留学と高Ⅲのときの友人との会話が大学入試を大きく変えました。勉強も、もちろん重要です。まずは今やらなければならない最低限のことを考え、妥協せずにこなしていくことが必要だと思います。

筑波大学は総合大学ということで、サークルや委員会などで簡単に様々な学群・学類の人と仲良くなれ、いろいろな考えに接することができます。各学群・学類の敷居が低く、自分の学類以外の授業でもある程度自由に受講できます。日本語・日本文化学類は本来日本語教師育成のためにつくられた学部で、教授にも日本語教師経験者が多く、日本語教育実習を海外でも行う授業もあります。もちろん、日本語教師を目指す人ばかりではなく、日本について広く学びたいと思う人も多くいます。国際交流もさかんで、同じ学年に他国籍を持つ人もいますし、毎学期「日研生」と呼ばれる留学生を学類で受け入れています。

第43回文化祭インフォメーション

テーマ

轍 ―わだち―

「轍」とは「車が通って道に残した跡。転じて、通過する車の輪」という意味です。このテーマには、現校舎では最後となる今回の文化祭を今までの集大成として一番すばらしい文化祭にし、時がたっても思い出の「轍」として心に残るような文化祭にしたいという思いが込められています。そして、この文化祭で心のなかに深く刻み込まれた思い出の「轍」は、これから新校舎へ向けての道筋をきっと作ってくれることでしょう。

	日　時	公開内容	場　所
第1日目	11月 9日(金)・9時～13時	校内発表会	本校体育館
第2日目	11月11日(日)・9時～15時	一般公開	本校校舎ならびに本校グラウンド

※一般の皆様への公開は11月11日(日)となります。ご来場をお待ちしております。

秋読書のすすめ

秋といえば読書。今回は社会科の先生方にお勧めの本を紹介していただきました。

『砂糖の世界史』

川北 稔(岩波ジュニア新書)

私たちが毎日何らかのかたちで食している砂糖。そんな日常にありふれたモノを通して現代世界の構造、環境問題、南北問題を考えさせてくれる一冊です。読み進めていくうちに、大航海時代、植民地、プランテーション、奴隷制度、三角貿易、産業革命など教科書に出てくる用語が相互につながってきます。

(田中 慎一郎 先生)

『「ビミョーな未来」をどう生きるか』

藤原 和博(ちくまプリマー新書)

著者によれば、現代は万人にとっての正解がない、まさに「ビミョーな」時代。そんな時代を生き抜くための知恵を、本書は教えてくれます。勉強は、仕事は、何のためにするのだろう。そういう悩みを抱えている人におすすめの本です。　(坂口 学 先生)

『渡邉美樹の夢に日付を～夢実現の手帳術～』

渡邉 美樹(あさ出版)

やりたいことや将来の夢は多いけれど、何から手を付けたらいいのかわからないという人は多いのではないでしょうか。そんな人にお勧めの本です。この本を読むと、大きな夢をかなえるには、全く難しくない小さなことをいかに継続して出来るかにかかっているということがわかると思います。何とか“変身”したい人、必読です。　(畑中 輝 先生)

『マリー・アントワネット』

シュテファン・ツヴァイク(中野 京子訳)(角川文庫)

フランス宮廷に14歳で嫁いだ王妃マリー・アントワネット。元来明るく元気な娘。しかし派手好きで国費を浪費し悪女として罵られ、革命を呼び起こす。そうして華やかな宮廷から断頭台へ―。そんな中で彼女は「何か」を知る。歴史が造り上げた史上最大の悲劇は私たちに何を語ろうとしているのでしょうか。

(藤畝 典子 先生)

CLUB NEWS

高校水泳部

●第39回広島地区秋季水泳競技大会
日時：平成19年8月25日(土)・26日(日)
場所：舟入高等学校プール
成績：原 剛輝(Ⅰ-5)　男子100m背泳ぎ　第2位
　　男子200m背泳ぎ　第2位
　　白石 遊(Ⅰ-4)　男子100m平泳ぎ　第6位
　　男子200m平泳ぎ　第4位
●平成19年度広島県高等学校新人水泳競技大会
日時：平成19年10月6日(土)・7日(日)
場所：びんご運動公園プール
成績：久留 琢丸(Ⅰ-5)　男子50m自由形　2位
　　男子100m自由形　2位
　　原 剛輝　男子100m背泳ぎ　3位
　　男子200m背泳ぎ　4位
　　白石 遊　男子200m平泳ぎ　8位

高校囲碁

●第31回全国高等学校総合文化祭囲碁部門(女子個人)
日時：平成19年8月1日(水)・2日(木)
場所：島根県出雲市　フローラいずも
成績：米田 紗世子(Ⅱ-4)　広島県代表として出場

中学卓球部

●第55回広島市中学校総合体育大会　卓球の部　佐伯区大会
日時：平成19年8月10日(金)
場所：三和中学校
成績：団体戦　Aチーム　第3位　→　市大会へ出場
　　Bチーム　第3位
　　個人戦(1年生大会)　田村 正範(1-1)　2位
　　長田 弘樹(1-4)　3位

中学バドミントン同好会

●第55回広島市中学校総合体育大会　バドミントンの部　西・佐伯区大会
日時：平成19年8月18日(土)
場所：井口台中学校体育館
成績：女子個人戦シングルス
　　吉田 裕子(3-5)　3位入賞　※市大会進出

中学陸上部

●第55回広島市中学校総合体育大会　陸上競技の部
日時：平成19年8月13日(月)・14日(火)
場所：広島市広域公園陸上競技場(ビッグアーチ)
成績：高学年男子 100m　長谷川 貴大(2-4)　4位
　　高学年男子 400m　烏谷 優太(3-1)　5位
　　高学年男子 走幅跳　長谷川 貴大　5位
　　高学年男子 100m×4R
　　烏谷 優太、長谷川 貴大、
　　小林 保晴(3-3)、佐藤 太紀(3-5)　4位
　　※県総体出場

中学サッカー部

●第20回広島西少年サッカー大会(ポリスカップ)
日時：平成19年8月10日(金)・11日(土)
場所：庚午中学校・城山中学校
成績：準優勝
●第55回広島市中学校総合体育大会　サッカーの部　佐伯区大会
日時：平成19年8月8日(水)・9日(木)・18日(土)・19日(日)
場所：五日市中学校・城山中学校
成績：佐伯区1位で広島市大会に進出

中学軟式野球部

●第55回広島市中学校総合体育大会　軟式野球の部　佐伯区大会
日時：平成19年8月8日(水)・9日(木)・10日(金)・11日(土)
場所：五日市中学校・城山中学校・三和中学校・造幣局グランド
成績：佐伯区4位で広島市大会に進出